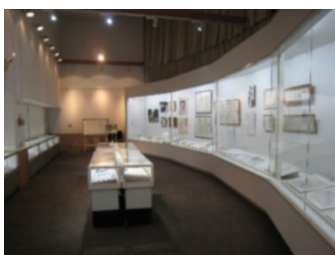


## 収蔵展 開催中

## 「自筆から見る浜松ゆかりの文人たちⅢ」



文芸館の収蔵資料の中から、山根七郎治・菅沼五十一・清水みのるの自筆原稿、絵画、書籍等を展示しています。

同時に、夏目漱石や森鷗外、太宰治等、著名な作家の手稿も展示いたしました。

自筆だから伝わる迫力、繊細さをお楽しみください。

平成27年11月1日(日)～平成28年1月24日(日)まで

## 浜松文芸十人の先駆者紹介

## その5

## 《物心一如の浜松の至宝・原田濱人》

原田濱人は、現在の浜松市東区原島町で誕生し育った。農家で旧家といわれた家柄で、旧制浜松中学校(現浜松北高等学校)へ入学した。英語の教師の感化を受けて、広島高等師範学校に進み、卒業後教師として、滋賀県、愛媛県、奈良県などの中学校へ赴任した。

1914年(大正3)、『ホトトギス』に初入選して、高浜虚子撰の雑詠で注目され始める。1915年(大正4)には、

虚子を京都に訪ねたが、その秋には虚子が濱人の自宅を訪れた。彼の俳句熱はいよいよ高まり、永岡一波、岩崎秋灯らと虚子の助言を得て、俳誌『みづうみ』を発行する。

1919年(大正8)、信州岡谷に赴任し、勤労青年たちを育てることに熱中した。1922年(大正11)には沼津中学校に赴任し、『すその』の課題選者となる。

1924年(大正13)、濱人は、『ホトトギス』掲載の句に共感できないと虚子と論戦を交わし、『ホトトギス』への投句を中止した。

1932年(昭和7)年、母校浜松第一中学校の教師となり、郷土の自然の中に自分の舞台を見出した。1939年(昭和14)に『すその』を去り、新しい俳誌『みづうみ』を創刊した。濱人の信条である「物心一如」の真の実現は、郷土の自然の中に自己を融合せしめることにあった。

1943年(昭和18)第一句集『濱人句集』発行。

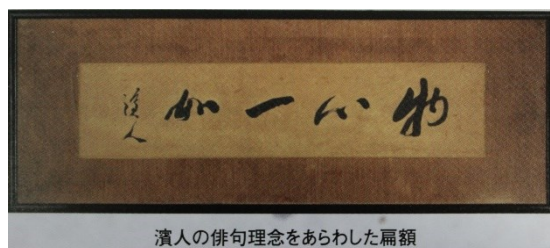
1950年(昭和25)第二句集『巖滴』発行。

1955年(昭和30)『濱人随筆』出版。

1963年(昭和38)第三句集『定本濱甚句集』完成。

1967年(昭和42)静岡県文化奨励賞を受賞。

1972年(昭和47)病急変し死去。



濱人の俳句理念をあらわした扁額

## 秋山大治郎、浜松の道場主を救出

池波正太郎の「剣客商売」は、「鬼平犯科帳」「仕掛人藤枝梅安」と並ぶ人気シリーズである。作者没後25年が経つが、いまだに多くの読者の根強い支持を受けている。

「東海道・見付宿」は、昭和48年「小説新潮」4月号に連載された作品で、小兵衛の息子で無外流の達人 大治郎が小兵衛のごとく大活躍する。

小間物屋平吉と名乗る未知の男が持参した女文字の手紙は、数年前武者修業の途中訪れて世話になった浜松の道場主 浅田忠蔵からの救いを求める手紙だった。小野派一刀流の浅田道場は諏訪大明神社近く、わら屋根の百姓家を改造した大きな道場であった。町人・百姓・武士の区別なく剣術を習いに来ていた。忠蔵は、「妻も子もなく、小兵ながら、すばらしい筋肉によるわれた体躯」の持ち主で、無精髭におおわれた玩具の達磨に似た愛嬌ある容貌をしていた。忠蔵との立合い後すっかり気に入られた大治郎は、3か月も「たのしい明け暮れ」を送ったのである。

門人には、百姓家町人が多いだけに、食べるものは、ほとんど買わないですむし、朝飯はともかく、夕餉の膳にのせる惣菜や酒などは、門人たちが、かわるがわる持ち運んできてくれる。そのかわり浅田忠蔵は、こうした門人から一文の謝礼もとらなかった。浜松藩士の門人もいたが、これらの人びとも身分にこだわらず、百姓・町人の門人たちと共に道場を掃除したり、それはもう実に、「和気藹々としたものでございました」と大治郎は語り終えた。

小兵衛の元を辞した大治郎は、60余里の道のりを見付宿へと5日で駆けつけた。中風を病み半身不随となった忠蔵は、叔父である玉屋伊兵衛の酒問屋に監禁されていることがわかった。忠蔵救出のために大治郎は浅田道場へ駆けつけた。

21名の加勢を得た大治郎は、九時半（午前一時）過ぎ、大槌、斧、鶴嘴で大戸を叩き毀して押し入った。棍棒を縦横にふるって叩きつけ殴りつけて回った。

乱闘が、ほとんど玉屋の北側でおこわれている隙に、南側の雑木林に待機していた六名が塀を乗り越え、小土蔵へ迫り、番人の二人をわけもなく打ち倒し、土蔵の戸を叩き破って、ついに、病みおとろえた浅田忠蔵を救出した。

忠蔵は用意の荷車に乗せ、これを二十余名がまもり、茂左衛門宅へ引きあげた。死傷者は一人もなく、また追手もかからなかった。

浅田忠蔵は、江戸へ帰る大治郎に不自由な両手を合わせ、伏し拝んだという。

40歳も年下の下女おはると結婚、軽妙洒脱で清濁あわせ持つ小男の父小兵衛、反対に大柄で堅物の息子大治郎、大治郎と後に所帯を持つ田沼意次の妾腹の娘、男装の武芸者佐々木三冬等々、登場人物がまことに個性的である。物語の展開と剣術が「剣客商売」最大の魅力だが、小兵衛一家の家族愛の物語としても楽しめる。

この作品はCDになっている。神谷尚武の朗読が素晴らしい。